

「いつまでも若々しく生きる」で街づくりを

－「一生勉強、一生青春」－

開倫塾

塾長 林 明夫

足利市を活性化させ、人口を 20 万人以上にするには、足利の文化・伝統を尊重・継続した上で、現代的社会の課題に真正面から取り組むことが求められる。

足利は、日本最古の学校、足利学校のある街。論語の素読、美しい立居振舞いと敬語表現を含む言葉遣いを内容とする躰、5S に、幼稚園生から社会人までが取り組むべきだ。

帝王学の古典、唐の太宗の言動をまとめた「貞観政要(じょうがんせいよう)」は、徳川家康が足利学校に命じて改版(出版)させ、江戸時代に広く読まれた。論語と貞観政要に生涯をかけて親しむことで、足利市民としての人格の基礎を築くべきだ。

欧米では、高齢者の高等教育がさかんだ。大学で学ぶ人は皆元気。奨学金を出してでも、高齢者への高等教育を奨励したい。

土地に親しむ人も皆元気。ロシアのダーチャ(別荘付農園)、森での活動を 40 歳以上の市民に奨励したらどうか。

トイレで苦勞しないよう、行政はトイレの改造の助成や税控除を。寝たきりにならないよう、歩き続けることができるよう、本人も家族も病院や介護施設でも全面支援を。

自分の力で食べ物を飲み込む力を強化し、胃ろうやチューブづけの治療を長期間受けなくても済む努力を。これからは自然死、尊厳死について考える時代。

10 年ごとにこれからの生き方を学び続け、社会の負荷をできるだけかけないことを目指すのも一つの生き方。

働くシングルマザー、先生と呼ばれる人、東京の川の手(下町)に住む人、東武伊勢崎線に住む埼玉県の人、足利市に留学した人の持つ課題解決に役立ち、親切この上ない足利市を手作りでつくりあげることが、足利市の未来を開く。人口も増やす。

自然と精神を大切に作る街、足利学校のある街の現代的意義を再発見したい。あきらめたらおしまい。自分の市のことは自分で責任を持つ気概を。

- 1 月 29 日記 -